

会 告 (I)

名 誉 会 員 の 推 挙

このたび、定款第8条の規定により、理事会および評議員の議決を経て、わが国鉄鋼業の進歩発達に対し大なる功績のある E. C. ベイン博士（アメリカ）を本会名誉会員に推挙することに決定、5月27日同博士に対し会長から名誉会員推挙状を贈呈いたしました。

理 事 の 更 迭

本会理事青木不二男君が都合により辞任せられましたので、定款第25条の規定により評議員会において理事1名の補欠選挙を行いました結果、富山英太郎君が当選、就任せられました。

“原子炉用鉄鋼材料に関する文献”実費配布

本会原子力研究委員会ではかねて文献専門小委員会を設けて、原子炉および原子力工業に関係する鉄鋼材料の外国文献を調査網羅する事業を行っておりますが、今回その刊行物を広く本協会各員に実費で配布することになりましたので、御希望の方は下記により、協会へ御送金御申込頂きたくおしらせ致します。

A. 原文青写真複写文献	本年度分	2000円
B. 翻 訳 文 献	同	2000円

Aは本委員会が集録した諸外国文献集の中から、最も重要と思われる文献を選定して、原文のまま全文複写し、逐次配布するもの。本年度分（第1号より）約20篇発行の予定。

Bは上記の文献集より選択した文献の中より全文翻訳、謄写印刷したもの。本年度分として約15篇発行の予定。

上記の申込締切は6月末日とします。

なお本委員会の活動および調査結果を要約した技術的内容の年報を年度末に発行する予定ですが、これも追って実費配布の方法を会告によりおしらせする予定です。

第1回自動制御連合講演会講演募集

主催学協会(アイウエオ順)：計装研究会、自動制御研究会、中部自動制御研究会、日本機械学会、日本計測学会、日本自動制御協会、日本繊維機械学会

参加学協会(アイウエオ順)：応用物理学会、化学工学協会、電気学会、電気通信学会、日本鉄鋼協会

第1回連合講演会・幹事学協会：日本計測学会（東京都板橋区板橋6の3569 中央計量検定所内）

日本自動制御協会（京都市左京区山端町一丁目1番地 京都大学工学研究所修学院分室内）

日本繊維機械学会（大阪市南区灘波新地2の28）

講演会開催日時：昭和33年11月11日（火）12日（水）

講演会開催地：大阪市

講演会場：大阪商工会議所の予定

講演申込：(a) 主催、参加学協会所属の会員は当該学協会を通じて申込み、参加学協会会員以外の方は直接幹事学協会に申込むこと。

(b) 講演内容は発表されたものでもさしつかえないが最近の研究に属するものが望ましい。

(c) 講演時間は約20分（討論を含む）の予定

(d) 講演の採択などは講演申込みを受付けた学協会に一任せられたい。

(e) 申込用紙は随意であるが次の事項を必ず記載すること。

①講演題目、②梗概約200字、③講演部門名、④講演ならびに連名者各々の氏名、勤務先、通信先、学協会員資格（連名の場合は登壇者に○印をつけること）⑤映画、スライド使用の有無と大きさ。

注：第1部 自動制御理論、第2部 自動制御要素、第3部 自動制御の各種工業への応用

講演申込締切期日：7月31日（所属学協会必着）

講演前刷：聴講者のテキストとし、あわせて講演時間の短縮、掛図などの節約を図るため講演者全部の講演前刷を作ります。講演者は前刷原稿を必ず期日までに各所属学協会へ（主催：参加学協会会員以外の方は申込んだ幹事学協会へ提出されたい）

①講演前刷原稿提出期日：9月30日、②前刷原稿は規定の原稿用紙4枚以内（図表、写真を含めて邦文にて約5200字）に明瞭に墨書して下さい。なるべく余白をさけるよう留意して下さい。

③前刷原稿の書き方の詳細は幹事学協会から講演申込者に送付いたします。④講演前刷はオフセット印刷になりますから写真も入れられます。原稿用紙は講演申込者に幹事学協会から送ります。所定用紙以外の用紙に書いた原稿は受けません。

会 告 (II)

鋼中非金属介在物の講習会開催御案内

本会では今般、鋼中非金属介在物測定法の新学振法および新 JIS 法の普及を図るため日本学術振興会製鋼第 19 委員会と共同で下記要領により鋼中非金属介在物の講習会を開催いたします。なるべく多数参加されますよう御案内申し上げます。

記

主 催 日本学術振興会製鋼第 19 委員会および日本鉄鋼協会
 会 場 東京都文京区本富士町 1 東京大学工学部
 (講義: 第 2 号館大講堂, 実習: 第 4 号館鉱山学科鉱物学実験室, 冶金学科金属組織学実験室)
 期 日 昭和 33 年 7 月 14 日 (月) 15 日 (火) 9:30~17:00

講演題目および講師

7 月 14 日 (月)

9:30~9:40	開 会 の 辞	
9:40~10:20	新学振法の説明	芥川 武君
10:20~10:50	新学振法の標準図について	森脇 和男君
11:00~11:30	測定視野数の影響	加藤 健君
11:30~12:00	試料作成法	今井勇之進君

中 食

13:00~13:40	実習要領の説明	堀川 一男君
14:00~17:00	実習 (第 1 法, 第 2 法)	

7 月 15 日 (火)

9:30~10:00	新学振法の実地作業における適用とその効果	関口 清一君
10:00~10:40	軸受鋼の非金属介在物について	上野 学君
10:50~11:20	鋼中非金属介在物の成因について	前川 静弥君
11:20~12:00	製鋼研究に対する R I の応用—特に非金属介在物の成因について	斉藤 恒三君
13:00~16:00	実習 (主として第 3 法)	
16:00~17:00	実習に対する質疑応答	

実習責任者 (日本鋼管) 堀川一男君, (金材技研) 田中龍男君

指導員 (日本特殊鋼) 野村宏君, 菅原節夫君, (日本鋼管) 水野直彦君, 山本清司君 (金材技研) 内山郁君
 池田定雄君, (特殊製鋼) 石川英次郎君, 荒木昭太郎君, (日立製作所) 大江春弥君, (八幡製鉄)
 加藤 健君, (三菱鋼材) 関不二雄君

補助員 (東京大学) 佐川龍平君, 高木甲子雄君, (ユニオン光学) 加藤孝治君, (オリンパス) 久保田稔君

講習料およびテキスト・プリント代

講習料 (聴講と実習) 1000円 (日本鉄鋼協会会員, 学振 19 委員会委員)
 1200円 (会員または委員以外)

プリント代 120円

講義のテキストには学振編「鋼と非金属介在物」を使用し別にプリントを使用する。「鋼と非金属介在物」は聴講者に限り 1 割引 1 部 720円で会場において販売する。

定員 100名 (超過の場合は実習の都合上お断りします)

申込期限 6 月 25 日

申 込 先 東京都千代田区丸ノ内 2-10 仲 14 号館 日本鉄鋼協会

会 告 (III)

第8回品質管理大会講演募集

品質管理討論会も回を重ねるにしたがって盛大となり、昨年の第7回品質管理大会は22学協会、団体の共催で行い、90余の講演があり、活潑な討論が行われました。今年も品質管理界の一大年中行事として、来る11月に第8回大会を開催することになりました。

品質管理は技術者や研究者が互に討論しあうことによつて進歩するものであり、他産業の実施例も互に益するところ大であります。したがつてこの機会に、なるべく多くの方々から、実施成果、研究成果、新提案などを発表されることを希望します。下記により講演を募集いたしますから、ふるつて応募していただきたいと思ひます。

特に今年度は新しいところみとして、諸外国の学協会の形式をさらに改善した形をとることにしましたので、御期待下さい。

1. 内 容 品質管理ならびに統計的方法の応用に関する研究発表、たとえば各種工業における品質管理のやりかた、効果、考えかた、管理プログラム、標準化、検査、品質規格、管理図、実験計画、相関分析、サンプリング、抜取検査、自動制御、管理試験、計測管理、設備管理、熱管理、倉庫管理、安全管理、事務管理、原価管理、市場調査、オペレーションズ・リサーチ、教育普及方法および用具、組織など。
2. 開催月日 昭和33年11月25日(火) 報告会 (午前) 報告会 (午後)
26日(水) 報告会 (〃) グループ討論会(〃)
27日(木) パネル討論会(〃) デ賞関係行事(〃)
3. 形 式 報告会は従来通り、ただし会場数を増加する。グループ討論会およびパネル討論会のテーマは「品質管理の壁」QCの推進にはいろいろの壁があります。これをつきやぶる問題を討論したいと思ひます。その他、講演付の中食会、社交の時間などをもうけて、自由討論をし、懇親を深めたいと思ひます。したがつて諸外国の集会と同様に集会費を集める予定であります。
4. 場 所 東京工業クラブの予定
5. 講演時間 1件20分(討論10分)
6. 申込締切 8月10日 申込希望者は至急切手で30円同封の上、申込用紙および原稿用紙を準備委員会宛御請求下さい。申込は前記規定用紙に参加希望部会名、題目(400字詰原稿用紙1枚以内の講演要旨添付のこと)、所要時間、発表者氏名ならびに所属会社、工場名などを記載して、申込むこと。
7. 申込および報告送付先 品質管理大会準備委員会
(東京都中央区京橋1の2大阪商船ビル、日本科学技術連盟内)
8. 報告予稿締切 9月10日
講演者は必ず報告予稿を提出のこと、指定の400字詰原稿用紙10枚以上20枚以内厳守(20枚以上のときは返送して再提出をもとめるか、あるいは当方で適宜削除します)
報文は活版印刷とするので特に期日厳守されたいし、その他報文記載要領参照
9. アンケート 前に記したように本討論会のテーマである「品質管理の壁」には、いろいろあると思ひますので、どんな壁(障害、問題点)があるかを8月10日までに、大会準備委員会宛に葉書で御連絡下さい。これによりグループ討論会のテーマをきめます。
10. 主催団体(順不同)
日本鉄鋼協会、日本金属学会、日本化学会、電気通信学会、日本薬学会、繊維学会、繊維機械学会、電気学会、日本分析化学会、日本鋳業会、日本鋳業協会、全国炭鋳技術会、高分子学会、日本工業経営学会、日本規格協会、計測学会、燃料協会、日本数学会、経営科学協会、米国品質管理協会日本支部、デミング賞委員会、日本科学技術連盟
【備考】今年も別にテーマをきめて、講演を募集する予定です。